

平成23年2月1日発行

熊川宿

鯖街道

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>



熊川宿自主防災デー（平成22年8月29日）

平成22年度コミュニティ助成事業

熊川宿の伝統的な町並みと住民を災害から守るため、平成20年度に住民と町が協働で地域の課題や対策を検討して「伝建地区若狭町熊川宿の防災まちづくり計画」を策定しました。それに伴い、平成21年7月には「熊川区自主防災会」が発足しました。

平成22年度コミュニティ助成事業（自主防災組織育成助成事業）は、熊川区自主防災会がより効果的な活動が行えるよう救済用品をはじめ必要な備品を整備し、防災活動を実施して、暮らす人にも訪れる人にも安心できる災害に強い熊川宿のまちづくりを進めていくことを目的に実施しました。

8月29日、猛暑のなか行われた「熊川宿自主防災デー」では、今回のコミュニティ助成事業で配備された防災備品のお披露目と、機器の操作研修が行われました。続いて実際に小型動力ポンプを使って「相対抗プチ操法大会」が行われ、区民が協力し合って放水訓練に取り組みました。

（5ページに関連記事）

目次

コミュニティ助成事業	1
寄稿文	2
寄稿文・話題	3
熊川いっぶく時代村	4
事業報告・話題	5
活動報告・お知らせ	6

「絵になる」熊川宿

熊川郵便局長 石田 智也

私が熊川郵便局のご厄介となりましてから、早いもので八年が過ぎました。

右も左も分からぬ若造が、間借りなりにもこうして勤めさせていただいているのは、熊川の皆様の懐の深さあればこそ、深く感謝するばかりです。本当ならばこの感謝の気持ちを込めて、熊川の皆さんだけ特別にうんと良い利率で貯金をお預かりしたいところですが、

残念ながら「名ばかり管理職」にそんな権限はなく、残念無念です。そんな非力な小生ではありませんが、得意とする絵を通して、ささやかながらも熊川地区の活動に参加させていただけたいと参りました。「いっぶく時代村」のポスターや、敬老会のパンフレット等々にイラストを描かせていただきましたが、一番手強かったのは何と云っても「てっせん踊り・熊川音頭」の踊り方の

初めてのリズム、見たことのない曲

き、それらが止まることなく次々と流れて行く…の二種類もーピ

デオをスローで何度も見直すも、人によってリズムの取り方やポーズが微妙に違うし、見るほどにもう何が何やら。踊れる

人には取るに足らぬことなのでしようが、いやはや、あれは参った。平尾希典さん、その節はご指南ありがとうございました。ありがとうございました。

絵がらみでもうひとつ。昨年秋に熊川宿の水彩画スケッチ教室をさせていただきました。以前にも熊川界隈を写生したことがあり、その時も感じたのですが、熊川は文字通り「絵になる」風景が多いことを再認識しました。観光客の方たちは、どうしても街道のみを通過して行って行かれますが、ちょっと脇に入った小さな小道や、静かに佇む寺社仏閣が如何に魅力的か、もっと知って欲しいものです。



お住まいの皆さんの温かな人柄に、呼応するように穏やかなロケーション。そんな素敵な熊川で、これからも楽しく仕事させていたいただきながら、イラストに限らず何かでも何かしら貢献させて貰えた

熊川宿に来て…

帆 彩 見 逸

主人と結婚し

三重県から熊川に来て、早五年

目になりました。

はじめの頃は、

あまりにも地元

と違いすぎる環

境や、知り合い

のいない場所での

生活に戸惑いました。

ですが、酒屋の仕事や、嫁

いですぐに誘っていただいた

女性の会での活動や沢山の行

事ごと、ご近所の方々の温か

い人柄もあり、今ではすっかり

熊川に馴染むことが出来ま

した。

地元へ帰った時に、寒い日

に皆より上着が一枚少なくても

平気だったり、言葉のイン

トネーションが皆と明らかに

違ったりする自分にハッと

します…もう自分は福井県民

なんだなあ…としみじみ思

間です。

ら、と考えています。

◇石田智也氏プロフィール

熊川郵便局長

若狭ものづくり美学舎 美術講師

熊川宿ファンクラブ会員

(若狭町関在住)

そんな私も二〇〇九年、子供を授かり無事元気な男の子を出産することが出来ました。熊川ののんびりとした環境と、見かけるたびに温かく話しかけてくれる皆様のお陰で、人見知りもすることなく、元氣すぎるくらいすくすくと成長しています。

今年の春には、第二子を出産予定です。また賑やかに、皆様にお世話になるかと思いますが温かく見守っていただけると幸いです。これからも、この熊川で、おばあちゃんから引き継いだ逸見酒店を守りつつ、家事に育児に頑張っていきたいと思えます。まだまだ新参者ですので色々のご指導よろしくお願ひします。



話題 TOPIX

文化財ワークショップ

(8月3日・遠敷公民館)



「京につながる鯖街道」をテーマに小浜市と若狭町の住民代表が鯖街道をキーワードにまちづくりに向けたアイデアを出し合いました。熊川宿関係では「街道松・水車・稲木の復活。鯖料理コンクール。朽木まで来ている京都バスを熊川まで延伸」などが提案されました。最後に滋賀県立大学教授の濱崎一志先生から、街道の景観・建物の保存について講演をいただきました。

第2回 歴史環境講座

(8月7日・歴史文化館)

アレックス・カー氏
(東洋文化研究者・株式会社 庵 取締役会長)
テーマ：日本の自然と文化を未来へつなぐ

若狭町の歴史遺産や自然遺産を未来へいかに繋いでいくか、映像を見ながら世界の事例をお聞きしました。講演の中で、「建物修復のポイントは、大切な所をより美しく引き出すこと。現代的な快適さがあるこそ生きてくる」と話されました。



伊藤竹之助翁胸像お披露目

(10月3日・宿場館前)

熊川出身で伊藤忠商事の二代目社長伊藤竹之助翁の胸像が宿場館に展示されることになりました。

この胸像は伊藤忠商事が所蔵していたもので、同社の会長小林栄三氏のご意向で、故郷である熊川の宿場館での展示が実現したものです。

伊藤竹之助翁(旧姓逸見)は熊川村初代村長逸見勘兵衛の次男として生まれ、滋賀県商業高校卒業後、伊藤忠商事の前身伊藤本店に就職、専務を経て伊藤忠商事二代目社長となりました。

熊川宿について思うこと

入江孝郎

熊川宿が重要伝統的建造物群保存地区の認定を受け、様々な催し物が行われるようになってきました。私としては何が珍しくて重要なのかなという思いがありました。昨年まで勤務先が嶺北だった事もあり、嶺北の方から出身地を聞かれる事が多々ありました。出身地を答えると「ああ、あの町並みの」といった返事を言われる事が度々ありました。

確かに土日や休日には観光客が町並みの見学をしています。それでも混雑するような人数ではありません。でも私としては今のままで十分だと思います。妻籠や高山といった有名な町並みを目指す必要はないと思っています。もっと観光客を呼び込みたいという方も居られるかも知れませんが、観光地である以前に熊川の住民の生活の場であり、観光客が増加することで住民の生活が不便になってしまつては本末転倒だと思います。何年か前のいづく時代村で司会者の方が「熊川宿は季節です」と言っていたのを覚えています。気楽に來れてそれぞれの季節を楽しむ事が出来るという意味でした。重伝建に認定されているからといって背伸びすることなく、それぞれ気楽に先祖から受け継いだ財産を守って行く、それが熊川宿の保存に繋がって行けばいいのではないかと思っています。

「おもてなしの会」近況

熊川宿おもてなしの会会員 石倉真澄

「おいでやす」
「おおきに、ありがとうございます」
「おおきに、ありがとうございます」
「おおきに、ありがとうございます」

勘兵衛茶屋を始めて三年余り。なんとかスムーズに口から出るようになりました。コーヒーをお出しするのも、お客様とお喋りするのめだいが慣れましたが、まだまだ勉強不足で、村の歴史や建物の細かい構造などを聞かれると、「管理人さーん」と助けを呼ぶことになります。

一昨年から、民泊も始めました。初めは食事を作るだけで余裕がなかったのですが、この頃やつとお客様といろいろお話しできるようにになりました。

「静かで落ち着くねえ、ホッとするわ」なんて言ってもらえると、いつものあつてあたり前の風景が、「ああ、ありがたいんだ」と改めて思えてきたりします。

ほとんど貸し切りですので、ゆつくり、のんびり寛いで頂けたらと思います。始めた時の、おもてなしの気持ちを忘れないように。

勘兵衛茶屋が、区民の方とお客様の気楽な交流の場となるよう橋渡しができたらいいなあとと思います。お気軽にお立ち寄り下さい。お待ちしております。



熊川 いっぷく 時代村

とき：平成22年

10月3日

ところ：

鯖街道熊川宿一帯

主催：熊川区・

熊川いっぷく時代村実行委員会

後援：福井新聞社・NHK福井放送局・

FBC福井放送・福井テレビ・

FM-FUKUI

司会：筒我道家 桐晴

熊川いっぷく時代村

途中、強風と小雨に見舞われましたが、多くの方にお越しいただき、無事終了しました。



石裂ウインドアンサンブルによるミニコンサートが開かれ、ちんどん屋、



町娘がオープニングを盛り上げました。



9つの旗を運ぶ大八車レースでは、各チームが坂道とスラロームに苦戦奮闘！
今年は親子の部と男女ペアの部の2レースが行われました。



江戸船組工、似顔絵、手裏剣道場は今年も多くの人気を集めていました。
風情ある町並みを人力車が走り、本陣では子ども祭り部が行われました。



毎年楽しみに来られる方が多いブリキの釜釜レース。今年は本製釜釜もデビュー。
下ノ町では、「めっちゃ楽しい！」と観光客が餅つきに挑戦していました。



秋味グルメを求めて街道をそぞろ多くと各所にバザーやいっぷく処がありました。



来場者にはアンケートにもご協力いただきました。「夜操鍋がおいしかった」
「人力車の人がやさしかった」「情報があり香場町の雰囲気がとても良い」etc



上ノ町では餅つき、まがり付近では熊川名物の長操鍋や蒸籠が味わえました。
旧遊見勘兵衛家では、真し子戯が開かれ、多くの入館者が見られました。

平成22年度 熊川宿自主防災デー

と き…平成22年8月29日(日)午前9時～
 ところ…熊川児童館

主 催…熊川区・熊川宿自主防災会

住民約80人が参加。中尾和徳熊川区長の挨拶に続き、若狭消防署員と備品の納入業者から説明がありました。続いて、今回のコミュニティ助成事業で配備された「小型動力ポンプ」や「街かど消火栓」などの使い方を学び、その成果を確かめるプチ操法大会が行われました。中尾会長は、「今回の事業で区民の防災意識が高まった。みんなが助け合いながら防災活動に取り組みたい」と話していました。



自主防災組織育成助成事業

(平成22年度 コミュニティ助成事業)

今回配備された防災資機材は、宝くじの売上金を財源とした「平成22年度コミュニティ助成事業」で購入しました。



備品名	数量	備品名	数量
①可搬式動力ポンプ	1	⑦油圧ジャッキ	1
②災害工具セット	2	⑧防煙・防塵マスク	3
③リヤカー	1	⑨車椅子	1
④除雪機	1	⑩街かど消火栓	1
⑤トランシーバー	4	⑪消火器ボックス	1
⑥消火バケツ	30	⑫宝くじ普及広報シール	1

(保管場所は主に熊川児童館倉庫)

第6回

文化財ふれあいフォーラム

と き…平成22年9月30日(木)午後7時30分～

ところ…旧旭座(小浜市住吉)

主 催…小浜市・若狭町

■基調講演「芝居小屋の価値と復元」

賀古唯義先生(文化財建造物保存技術協会)



「芝居小屋は現在全国に30程しか残っていない。旭座は劇場、映画館、自動車工場、酒屋の倉庫として利用されてきた。規模は小さいながらも柱や梁の痕跡が残っていて復元できる史料価値は完全に近い」と話されました。

■趣旨説明

鳥居直也委員(小浜市若狭町歴史文化基本構想)

「鯖街道、御食国、城下町をテーマにワークショップを行った。文化財等を面として活用していきたい」

■パネルディスカッション

「歴史文化を活かしたまちづくりー住民からの提言ー」

◇佐野達也氏(おばま観光局事業推進経路部長/小浜市)

◇足立直紀氏(デザイナー/小浜市)

◇玉川正隆氏(筑紫寺住職/小浜市)

住民団体代表が「人が

活きる誇りの持てるまち、

人が住んでこそその「べん

がら格子が灯るまち」を

目指したい」などと活動

や将来像を語られました。

◇藤内寿博氏(若狭三方五湖

観光協会常務主任/若狭町)

「自然を生かした教育旅

行の受入れを行っている。

漁村における古文書の調査ができたらしい」

◇藤本正夫氏(若狭熊川宿まちづくり特別委員会副会長/若狭町)

「まちづくりは住民とのコンセンサス、人づ

りが大切。てっせん踊りで一乗寺と、蛍の人工

飼育、葛の再興で各地と交流している」

◇西村幸夫先生(東京大学教授)

「今夜この旭座で一夜限りの賑わいを取り戻

した。私たちの周りには知らないと思過してし

まう文化財がたくさんある。自信を持って情報

を蓄積してまちづくりに活かしてほしい」とま

とめられました。

話題 TOPIX

刺し子体験講座 (10月23日)

主催：越前・若狭「モダン刺し子」麻の葉会
 後援：若狭熊川宿まちづくり特別委員会
 熊川宿おもてなしの会

熊川宿で刺し子を伝承しようと体験講座が開かれました。町内外から約20名が集まり、五島万里代先生のご指導のもと、2つの小作品に取組んでいました。講座は11月20日にも開かれ、その後基礎講座として継続される予定です。



葛の勉強会

(11月16日・熊川宿活性化チーム)

熊川の葛を再興しようと、神戸大学名誉教授の津川兵衛氏をお迎えし、葛の歴史と利用について勉強会がありました。葛で村起こしをされた兵庫県丹波市山南町や、フィリピン・ピナトゥポ火山被災地の緑化事例などをお聞きし、栽培方法などを質問していました。

「技術の会だより」創刊

(11月20日・熊川宿町並み保存伝統技術研究会)

発足以来12年を経過した同会は、平成21年度に行った視察研修や事業活動を報告し、同会の理解を深め、大いに利用していただくことを願って広報誌を発行しました。創刊にあたり、顧問の先生方からいただいたコメントや、それぞれの思いを綴ったメンバー紹介も掲載しています。(詳細：熊川宿HP参照)



〔活動報告〕平成22年7月～12月

8/15

納涼盆踊り

(熊川宿・熊川自主会
熊川宿伝統芸能保存会)

記録的な猛暑のなか準備が行われ、恒例の納涼盆踊りで流行踊りや江州音頭が踊られました。また伝統芸能保存会メンバーによるつせん踊り、熊川音頭が披露されました。
金魚すくいや焼そばの屋台は、里帰りの家族連れや子どもたちで賑わっていました。

10/24

第2回 水彩画教室

(熊川宿おもてなしの会)



熊川宿の魅力を再発見してもらい、リピートに繋がようと昨年に続き、水彩画教室が開かれました。
参加者は思い思いの場所ですケッチに取りかかり、若狭ものづくり美学舎の美術講師でイラストレーター石田智也氏からアドバイスを受けながら、秋の熊川宿を描いていました。
仕上がった作品は、後日、勘兵衛家ギャラリーに展示されました。

10/29

文化庁 清永調査官来訪

文化庁参事官付文化財調査官の清永洋平先生をお迎えし、小浜西組からの参加者も交えて、講演と懇親会が開かれました。先生は、伝建地区や補助制度の現状、熊川らしく伝建のまちに住まうことの意味などを話されました。
また毎晩続いている夜番を体験され、自ら鐘を鳴らして中ノ町を廻られました。



カラカラカラ

11/10

伝建制度35周年大会 (東京)



伝統的建造物群保存地区制度発足35周年を記念して東京でシンポジウムが行われました。
熊川でもお世話になって、東京大学の西村幸夫先生が基調講演され、その後全国で伝建に関わる方々によるパネルディスカッションが行われました。熊川からも代表者が参加しました。

11/23

ふくしまがどコンサート

主催 福井県



共催 若狭町・熊川宿おもてなしの会
若狭地方で活動している女性室内楽奏者「樺トリオ」のミニコンサートが旧逸見勘兵衛家で開かれました。
深まる秋にふさわしい「秋桜」や「里の秋」、クラシック曲などが演奏され、やさしい音色で訪れた聴衆を魅了しました。

12/28

年末夜回り警戒

(若狭消防署上中分署
熊川区ほか)

みんなで火の用心を心がけ平穏に新年を迎えようと、今年も年末夜回り警戒が行われました。
区民らが下ノ町と上ノ町の端から夜番の鐘や拍子木を鳴らしながら火の用心を呼びかけ、熊川児童館に集結。上中消防団の年末特別警戒出発式に参列しました。

あとがき

記録的な猛暑が続き、短い秋が終わったと思ったら、大晦日には一日にして50センチもの積雪に見舞われ、その後も断続的に降り、厳しい冬となりました。

昨年、熊川宿では防災備品を充実し、操法訓練などを通して区民の防災意識も高まってきているのではないかと思います。今年6月に住宅用火災警報器の設置が義務化されると聞いています。区民みんなの力で災害のない明るいまちづくりに努めたいものです。

話はそれますが、現在無料の舞鶴若狭自動車道は、3月末で一旦無料化は終わりますが、今年夏には小浜ICまでが開通する予定で観光客増が見込まれます。

また今年NHKの大河ドラマ「江い姫たちの戦国」が話題となっていて、小浜をはじめ若狭地方への関心が高まること予想されます。この熊川にも多少関係のある物語なので、歴史を楽しみながらドラマを観ていきたいと思えます。もちろん、新しい地デジTVで！

(編集委員)



くまや おおの
倉見屋敷野家住宅が
町指定文化財に！

倉見屋は、熊川宿で最も古い民家で、間屋敷を営んでいた頃の建物や屋敷がよく残っています。今後、所有者のご協力をいただきながら熊川宿の見所のひとつとして整備が進められる予定です。

若狭から
お知らせ